

# 平成24年(2012年)度「確かな学力」向上プラン

明石市立 小学校

## ＝学校の教育目標＝

### 子どもが輝く学校

～たしかに ゆたかに たくましく～

- よく考え、よく学ぶ、たしかな知恵を備えた子
- 思いやりがあり、心ゆたかな子
- 心身とも健康でがんばりぬけるたくましい子

## ＝本校の課題＝

- ・本校の家庭は、社会状況の変化により経済格差が拡大しており、就学援助率が高い。放置すると、経済格差がそのまま生活格差となり、学力格差となってしまう。家庭崩壊や生活崩壊に陥っている家庭や児童を支えることが全ての前提である
- ・「早ね・早起き・朝ごはん」運動をはじめ生活リズムを整えることに取り組んで一定の成果を上げてきたが、さらに徹底を図ること
- ・生活リズムの定着を図る取り組みを発展させ、その上に学習準備を整えたり家庭で学習や読書をしたりする習慣の確立に取り組むこと
- ・学習の成果を向上させるために、支え合い、励まし合う学級づくりに努めて、学級を「心の居場所」にし、安心して自己を出せるところにすることにより、学習集団として機能を高めること

## ＝本校における「確かな学力」とは＝

- ・心身ともに健康で夢や希望を持って前向きに積極的に生きようとする姿勢
- ・自己を律するとともにそれぞれのよさを認め合う共に生きる姿勢
- ・自分の目的に向かって自ら課題を見つけ、自ら学ぼうとしたり考えようとする姿勢
- ・目標に向かって粘り強く努力する強い意思と強い身体
- ・学習指導要領に示された教科や領域の基礎・基本、知識や技能の習得だけでなく、前向きに強く生きる姿勢を備えた生きる力を「確かな学力」と考える

「確かな学力」の育成に向けての取組		目指す姿(到達目標)
教育活動(授業)の改善・充実への工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技能の定着</li> <li>・少人数指導や同室複数指導、反復練習</li> <li>・到達状況・実態把握に基づく個別指導</li> <li>・学習集団として考えを磨き合えるような話し合いの訓練</li> <li>・話型の定着、話し合いや討論の訓練</li> <li>・教えることと考えさせることとのバランスのとれた授業構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師集団の指導力の向上による日々の授業の充実とともに、一人ひとりの児童の状況に応じた個別の指導により、基礎・基本が全員に身につけている。</li> <li>・安心して自分の考えを出し合える学習集団の中で活発な意見交換がなされる。</li> </ul>
教育課程編成上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習、集団行動をととして、豊かな心の育成</li> <li>・朝10分間の「さわやかタイム」設定による読書習慣の確立</li> <li>・昼休みを利用した個別指導の実施</li> <li>・異年齢交流による児童間の教え合い・助け合いの校風の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を思いやり、協力を惜しまない。</li> <li>・毎朝静かな読書の時間を過ごすことで、落ち着いたさわやかな一日のスタートを切る。</li> <li>・一人ひとりが自分の課題をわかっている。</li> </ul>
校内における研究や研修の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科(算数科)を通して、確かな学力の育成</li> <li>・児童理解や講師を招いての研修等による学級経営力の向上</li> <li>・基礎・基本の定着</li> <li>・思考力・表現力の向上</li> <li>・コミュニケーション能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な考え方を引き出す授業の創造</li> <li>・どの子ども活躍できる場面が1時間の中でどこにある授業展開の工夫</li> <li>・指導と評価の一体化(授業にPDCAサイクルの導入)を目指す</li> </ul>
子どもを元気にする工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育を通して、基本的な生活習慣や学習習慣定着の取り組み「元気アップカード等の活用」「早ね、早おき、朝ごはん」運動</li> <li>・学級が「心の居場所」となるように、それぞれの良さを認めあえる学習集団づくり</li> <li>・児童会を中心にした「チクチク言葉追放」運動の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「早ね、早おき、朝ごはん」運動の全児童への定着</li> <li>・児童とのふれあいを大切にして、児童理解や人間関係づくりを目指す</li> </ul>
家庭や地域との連携の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育を通して、基本的な生活習慣や学習習慣定着の取り組み</li> <li>・PTA行事に食育を取り入れる</li> <li>・地域行事に積極的に参加することを通して、地域ぐるみの教育活動を推進する</li> <li>・保護者ボランティア「ブックママ」による読書活動の推進</li> <li>・学校地域支援ボランティアの有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「早ね、早おき、朝ごはん」運動の全家庭での理解と実践</li> <li>・家庭での読書や学習習慣の定着</li> <li>・地域、保護者とパートナーシップを組み子どもの教育にあたる</li> </ul>

＝学校の教育目標＝

『豊かな心とたくましく生きる力を育む』

＝本校の課題＝

- ・本校の児童は、基礎的・基本的な知識、技能の習得や定着に時間を費やす場合が多くこれまでの取り組みを組織的・継続的に充実させていくことによって基礎的な力をつけさせなければならない。
- ・身につけた力を長期にわたって定着したり活用したりするなど、継続した学力の保持に弱い面がありスキル学習を継続して行なわなければならない。
- ・体験的、経験的な活動を授業場面で取組み、具体的な活動や五感を通した活動などを行い、生きた学習力を培い心情面・情緒面を培っていく必要がある。

＝本校における「確かな学力」とは＝

- 社会生活の基盤となる3R(読み・書き・計算)がレディネスに沿った力をもっていること。
  - 学習指導要領に明示された目標・内容に基づく教科の知識及び学力
  - 健康で安全な生活を自らつくることのできる自主的な力
- 上記の3点の内容が多面的・複合的に組み合わせさせた力を本校の「確かな学力」として取組む。

「確かな学力」の育成に向けての取組	目指す姿(到達目標)
<b>教育活動(授業)の改善・充実への工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着(チャレンジ学習、単元テスト、小テストなどを通して個々の児童の到達度の把握を行う。)(少人数指導の実施と定着、TT学習による同室複数指導や個別の取り出し授業、学年単位による教科交換授業など)</li> <li>○言語活動・体験活動の充実(体験的な学習の充実を図るとともにそれを基にした「聞く・話す・読む・書く」の訓練を重視する。</li> <li>○自分の思いや考えを伝え合い、筋道だった考えを説明することができるコミュニケーション力を大切に授業の創造を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な学習内容の定着が行われる。○体験や経験等から得た力や技能を基にしながら自分の考え等をわかりやすく伝えたり級友の話にも耳を傾けたりしようとする。</li> <li>○五感を通した活動を行う事により実感的な経験や体験を表現しようとする。</li> <li>○コミュニケーション力を高めるために話法や聞き方などの学習スキルを駆使して自分の思いや願いを伝えることができる。</li> </ul>
<b>教育課程編成上の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○始業前、朝の15分間チャレンジ学習(スキル学習・音読学習・読書活動)等く月曜を除く毎日学習をする。</li> <li>○異年齢集団「わんぱく団」による集団作りにより思いやりの心や責任感などを培う。</li> <li>○新学習システムによる兵庫型教科担任制の導入とともに算数科の少人数指導、並びに同室複数指導の導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の学習(チャレンジ学習)の充実と習慣化を目指す。読書や視写、書き取りなどを継続して行い「書くこと・読むこと」の苦意識を払拭するとともに学習スキルを身につける。</li> <li>○中学校へのスムーズな学習形態の導入を促すとともにどの子も分かる喜びを味わうことができる。</li> </ul>
<b>校内における研究や研修の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の研究テーマに迫るために日々のスキル学習や言語活動を充実し読書を始め文字筆記等の言語活動の習慣化を図る。</li> <li>○コミュニケーション力を高めるために話法や声の大きさなど常に留意させコミュニケーション力を培っていく。</li> <li>○ユニット会議を始め幼・保・中学校との共同研究を進め中学校区をあげて情報交換の場を設定する。</li> <li>○先進校や本校の研究課題に参考になる学校などを視察研修を行うとともに報告会や学習会を行い教師の資質向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に授業を公開し開かれた授業作りを目指す。それぞれが学び合う授業作りにむけ努力しようとする。</li> <li>○児童が自由に且つ快活にコミュニケーションをとることができるようスキルを高めていく。</li> <li>○園所からスムーズな進学を図ることができるよう幼・保の経験を生かした学習や生活を送ることができるようにする。</li> <li>○教科担任制や担任間交換授業のなかで様々な教師と子どもとがよりよい関係を持ちよりよい学習方法を開拓していくことができる。</li> </ul>
<b>子どもを元気にする工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの心が安定できる学級経営に向けて生徒指導・生活指導の充実を図るとともに児童全体による授業の創造を行う。</li> <li>○異年齢集団「わんぱく団」での活動を通してコミュニケーション能力を高めるとともに思いやりの心が培えるような指導を行う。</li> <li>○苦手意識も自分の個性と思えるような特別支援教育の視点に立った自尊感情の高揚が図れる工夫を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちとの交流を十分に図り友人の主張や話をよく聞き、相手意識をもつなかで円滑なコミュニケーションをはかることができる。</li> <li>○常に「異年齢」という意識を持ちその中で思いやりや尊敬の念を抱けるようコミュニケーションの場を大切に、体験・経験をともに行っていく。</li> <li>○個別の指導計画を充実し、個々の児童にあった指導方法が活用できるようにする。</li> </ul>
<b>家庭や地域との連携の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習習慣や基本的な生活習慣など保護者に対して常に連携をとり「学校便り」「家庭学習の手引き」を始め協働の心で子どもを育成していくことに取り組む。</li> <li>○参観・懇談会・オープンスクールの充実、地区懇談会を開催するなどして広く情報を共有する。</li> <li>○外部評価の実施と情報提供の推進、学校HP・学校だよりの発行などを充実する。</li> <li>○教育関係機関や地域にある諸団体と情報を交換するなどして連携を常に図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に情報公開し開かれた学校作りを行い地域・保護者とともに努力を行う。また家庭学習を習慣化し学校でその力を発揮できるようにする。</li> <li>○地域の方々にも授業に参加していただいたりゲストティーチャーとして教授するなど行う。</li> <li>○学校便りの定期的な発行・HPの新規更新を行う。</li> <li>○開かれた学校作りを目指すとともに地域の教育拠点として連携をすることができる。</li> </ul>

## 平成24年(2012年)度「確かな学力」向上プラン

明石市立 小学校

## ＝学校の教育目標＝

## 自ら学び、いのちを大切にし、心豊かな子の育成

～よく遊びよく学び、自分も友も大切にする子～

- よく考え、自ら学ぶ子(知)      自ら学ぶ子 確かな生きた学力の定着
- いのちと人権を大切にする子(徳)      人を大切にする子 自分を大切にする子(自尊感情の育成)
- 互いに助け合う、心身ともに豊かな子(体)      すこやかな体 くじけない心

## ＝本校の課題＝

- 人権教育の研究の積み上げにより、自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受け入れたりすることに意欲的な子が増えつつあるが、よりよく人と関わるための、コミュニケーションの力など育む必要がある。
- 特別に支援を要する児童が年々増加する傾向にあり、全教育活動を通して特別支援教育の発想を取り入れた見直しを図ることで、一人一人が安心して学校生活を送ることができるようにする必要がある。
- 外で体を動かして遊ぶ子が多く見られるが、体力・運動能力全般に平均より低い児童が多いため、体育やその他教育活動の中で意図的、計画的に向上させていく方針を立てる必要がある。

## ＝本校における「確かな学力」とは＝

- 自尊感情を持ち、自他を大切に生活する力
- 自分の思いを堂々と発表したり、相手の言葉を確かに聞き取り、思いを受け止めたりする力
- 互いの思いや考えを尊重し、友達と協力しながら生活をよりよくしようとする力

「確かな学力」の育成に向けての取組		目指す姿(到達目標)
教育活動(授業)の改善・充実への工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境構成面での工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学級も、統一して、教室の前面に「姿勢」「聞き方」「話し方」「友だちを大切にしたい話し方」を掲示し、学校全体で指導をそろえることで、話し方や学習規律を意識させる。</li> <li>・クラスや学年内、学年層の物語教材の朗読の発表を定期的に持つことにより、伝え合う喜びと満足感を味わわせる。</li> <li>・友だちの良いところを見つけ、カードに書いて紹介し合う取り組みを通して、互いを認め合い、相手の良い面をみていこうとする意識を高める。</li> </ul> </li> <li>○援助・支援面での工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりと大きな声で、自分の気持ち、意見が言えるようにするために、音読指導を行う。</li> <li>・聞き合う力、伝え合う力をつけるために、互いに考えを交流し合う場を多く取り入れる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○語彙がふえ、授業の発表、友達との会話、大人との会話でも自信を持って表現できるようになる。</li> <li>○会話を楽しみ、トラブルなども自分達で考え話し合って解決しようとするようになる。</li> <li>○スムーズに思いや考えを伝えられるようになる。</li> <li>○人を思いやる優しい心が育ち、感性が高まる。</li> <li>○認めてもらう喜びで自分の良いところを最大限出そうとする意欲をもち、日常生活で気配りのある言動をする。</li> </ul>
教育課程編成上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の徹底、学習指導の充実。</li> <li>○校内研究、生徒指導、児童会活動の連携を図り、心豊かな子どもを育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能が定着し、たくましく生きる力をもつ。</li> <li>○豊かな感性や想像力、表現力をもつ心健やかな児童。</li> </ul>
校内における研究や研修の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「友だちを思いやり、認め合い、共に伸びていこうとする子の育成」という研究主題から、児童の実態把握、学級づくり交流会、人権教育カリキュラムの作成、道徳年間指導計画の作成、また全員による研究授業を通して取り組む。</li> <li>○人権教育を研究の中心にすえ、人権にかかわる学習内容の重点教材を選んだり、児童会活動では、自分や友だちの良さを見つけ伝える場作りを工夫したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えをしっかりと持ち、気持ちを込めて表現したり、ともに考えようしたりする能力を身につける。また、友だちの気持ちを考え、思いやりのある行動ができる。</li> </ul>
子どもを元気にする工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「フレンドカード」の取り組みや「きらきらさんみつけたい」の取り組みによって友だちの良さを認め合い、ありのままの自分を好きになることができるようにする。</li> <li>○3年生以上の希望者を対象に、体力作りを目的に朝の陸上練習を行う。がんばり表によって自分なりの目標を立てて意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの子どもよさを認め合い、ともに高めあい、伸びていこうとする。</li> <li>○運動の楽しさや健康の大切さを知り、自主的、自発的に体力作りに取り組もうとする。</li> </ul>
家庭や地域との連携の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者によるブックママの年間を通じての活動で、本を通してのふれあいの機会を持つ。</li> <li>○オープンスクール時に音読交流会を企画するなど日々の取り組みを公開する機会を持つ。</li> <li>○子ども見守り活動のスクールガードさんと積極的に挨拶を交わす習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭や地域での大人と子どもが、会話をする機会が増え、人と人のつながりができていく。</li> </ul>

# 平成24年(2012年)度「確かな学力」向上プラン

明石市立 中学校

## ＝学校の教育目標＝

自ら学びつづけ たくましく生き抜く 心豊かな生徒を育てる

## ＝本校の課題＝

- 本校の生徒は、全体的に見ると、生活の状況、学習の状況ともに良好である。しかし、生活面では自分で自分の行動をコントロールできるたくましさや精神的な強さを育てる必要がある。学習面では、「書力」や「発表する力」に課題があり一人ひとりを見ると、基礎的・基本的な知識・技能が十分でない生徒もいる。
- 一人ひとりの課題を解決する支援(特別支援教育)を全職員の理解のもとに実践を積み重ねる。
- 学級活動・生徒会活動・部活動を中心に、生徒が自主的に活動する場を工夫し、自主・自立の精神を育てる。
- 命と人権を大切に、思いやりの心や共に生きる心を育てる教育を推進する。
- 学校・家庭・地域の連携を強化し、信頼される開かれた学校づくりに努める。

## ＝本校における「確かな学力」とは＝

- 基礎的・基本的な知識や技能の修得とそれらを活用し思考、判断、表現する力
- 自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ意欲・態度
- 物事に集中して、継続的に取り組むことができる精神力や体力
- 学習や生活を支える基本的な生活習慣・学習習慣の定着

### 「確かな学力」の育成に向けての取組

### 目指す姿(到達目標)

<p><b>教育活動(授業)の改善・充実への工夫</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的・基本的な知識や技能の定着                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの実施 ・補充学習の実施 ・英検、漢検の実施</li> <li>・少人数授業の推進</li> </ul> </li> <li>○ 言語活動の充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す、書く、聞く、読む」のバランスのとれた言語活動の展開</li> <li>・作文などの学級、学年、全校での発表会</li> <li>・生徒の手による学年、学校行事の運営</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個に応じたきめ細かな指導のもとに、着実に基礎的・基本的な知識・技能が身に付き、学習意欲が高まる。</li> <li>○ 自分の考えや思いなどを整理し、意見を発表することにより、表現する力や考えをまとめる力、伝える力が身につく。</li> <li>○ 自ら意欲的に・主体的に学習に取り組む。</li> </ul>
<p><b>教育課程編成上の工夫</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝の10分間読書の充実(毎日)</li> <li>○ 少人数授業や複数指導の拡大と充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学…3年 ・英語…1, 2年 ・情報…3年</li> </ul> </li> <li>○ 特別支援教育の充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒に対して、複数指導できる体制づくり</li> </ul> </li> <li>○ 不登校指導の充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内適応教室の充実</li> <li>・ボランティアによる学習支援と教育相談の充実</li> <li>・スクールカウンセラーとの連携強化(校内スクールカウンセラーコーディネーターの設置)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師と共に毎朝、読書をするにより、本や活字に親しむ姿勢が身に付き、豊かな心や創造力が育つ。</li> <li>○ 少人数授業の実施や授業に学習補助に教師が複数で入ることにより、支援が必要な生徒の学ぼうとする意欲が高まる。</li> <li>○ ボランティアによる学習指導、教育相談やスクール カウンセラーの教育相談の充実を図り、基礎学力の定着と不登校生の減少を目指す。</li> </ul>
<p><b>校内における研究や研修の工夫</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業研究の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科ごと、学年ごとの公開授業の実施</li> <li>・互いにいつでも授業を参加しあえるシステムづくり</li> </ul> </li> <li>○ 若手教師を対象とした研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究 ・先輩教師からの講義</li> </ul> </li> <li>○ 特別支援教育や生徒指導の研修の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家の指導 ・ケース会議 ・実践交流</li> </ul> </li> <li>○ 教育実践のまとめ(冊子)の作成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価 ・各分掌のまとめ ・次年度への課題</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業研究をすることにより、互いに授業技術を学ぶことができ、授業力が向上する。</li> <li>○ 授業だけでなく、いろいろな指導について先輩教師から話を聞き、意見交換することで、実践に即した力が向上する。</li> <li>○ 問題をかかえている生徒の理解が深まり、学習指導や生徒指導の技術が向上する。</li> <li>○ 教育実践が次年度に生かされ、学校改善につながる。</li> </ul>
<p><b>子どもを元気にする工夫</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の自主性の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動 ・委員会活動 ・学年、学校行事</li> <li>・学級活動 ・部活動</li> </ul> </li> <li>○ 幼稚園との交流会の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園との交流会</li> </ul> </li> <li>○ 校区学校園との連携                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区ユニット会議の開催</li> <li>・小学校への出前授業の実施(英語など)</li> <li>・オープンスクールの交流</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒自身の手で学校生活をよりよくする取組を進め、学校に活気がでる。</li> <li>○ 幼稚園と交流することにより、思いやりの心など豊かな心が育つ。</li> <li>○ 校区の学校園の連携を図り、共通した課題に取り組むことでより大きな成果が期待できる。</li> <li>○ オープンスクールの交流や出前授業の実施により、小・中の授業の連携が深まる。</li> </ul>
<p><b>家庭や地域との連携の工夫</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の専門家の活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業 ・部活動 ・講演会</li> </ul> </li> <li>○ 学社融合授業の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・天文科学館</li> </ul> </li> <li>○ 関係機関と連携した生徒指導の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会 ・警察(サポートセンター) ・医療機関</li> <li>・子ども家庭センター ・子育て支援課 ・発達支援センター</li> </ul> </li> <li>○ オープンスクールの実施</li> <li>○ 「ふれあいバザー」の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門家から直接指導していただくことにより、生徒の興味・関心を引きつけ、学習意欲が高まる。</li> <li>○ 専門家の助言や支援を得て、治療や生活改善を図り、よりよい生活が送れるようになる。</li> <li>○ 学校に来校することで、学校のことを知ってもらい、よき理解者になってもらう。</li> <li>○ 学校が保護者や地域の人と一緒に物事に取り組むことを通じて信頼関係を深まる。</li> </ul>

## ＝学校の教育目標＝

命と人権を尊重し、豊かな心と生きる力を身につけ、心身ともにたくましく健全な生徒の育成をめざす。  
校訓 自治 創造 協調 真理

## 目指す生徒像

- (1) 自主自律の精神にみち、実践力のある生徒 (2) 豊かな創造力を持ち、夢や目標に挑戦する生徒  
(3) 社会性を身につけ、互いに協力し合う生徒 (4) 学ぶことの喜びを知り、真理を求め続ける生徒

## ＝本校の課題＝

## 確かな学力と豊かな心を育む(教科指導と学級指導の充実)

- ◎ 基礎・基本の確実な定着を図り、考える力と感性を伸ばす教育の充実を図る  
◎ 全ての教育活動の中で、人権感覚を磨き、豊かな人間関係を築く力を育てる  
◎ 開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域との行動連携に努める  
◎ 日常の教育実践を通して人間性・専門性・指導力を磨くとともに、互いに高め合う教師集団づくりをめざす

## ＝本校における「確かな学力」とは＝

基本的な知識・技能と共に思考力・表現力・判断力

- 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える力  
○目的意識を持ち、主体的に進路選択ができ、自己実現を図ろうとする能力や態度  
○基本的な生活習慣、学習習慣を身につける力  
これらのバランスのとれた総合的な力を本校の「確かな学力」として取り込む。

## 「確かな学力」の育成に向けての取組

## 目指す姿(到達目標)

教育活動(授業)の改善・充実への工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着               <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト、小テスト等を通して個々の生徒の到達度の把握</li> <li>・繰り返し指導、少人数指導の実施</li> </ul> </li> <li>○体験と言語活動の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を充実させ、考える力やそれを基にした「話す、聞く、書く、読む」などの言語活動を展開させる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の情報交換や研修に励む教師集団に支えられ、基礎的・基本的な知識が身に付いている。</li> <li>○体験等から考えや意見をわかりやすく伝えたり、仲間の話にも耳を傾け、考えを深化させようとする。</li> </ul>
教育課程編成上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領完全実地に対応できる、授業時数の確保と行事の精選を行う。</li> <li>○朝の10分間、読書タイムの実施(毎日)</li> <li>○2、3年数学、3年英語での習熟度別少人数授業の実施(新学習システム)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書タイムを実施する中、読書習慣が着実に定着している。</li> </ul>
校内における研究や研修の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の研究テーマに沿って、各教科で教師一人一人が課題を持って、授業公開する。</li> <li>○小学校との連携を図り、互いに授業公開する。</li> <li>○講師を招き、実践的な研修を行う。</li> <li>○校内に学力向上委員会を設置し、昨年度の全国学力調査を分析し、本校の学力向上への取り組みについて検証していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業公開を行い、授業づくりに努力する教師集団の中で、積極的に授業に参加しようとする</li> <li>○学校生活全般において、積極的な態度で学習、生徒会活動、部活などに取り組む。</li> </ul>
子どもを元気にする工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主自立を目指した学級・学年・生徒会活動の取り組みを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が中心となり学級・学年・生徒会活動を行う。</li> </ul>
家庭や地域との連携の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣・学習習慣の定着に向けての啓発活動を行う。(学校便り・学校HP・学年通信・懇談会の充実など)</li> <li>○学校評価の実施と積極的な情報発進に努める。</li> <li>○関係機関との連携に努める。</li> <li>○オープンスクールを定期的実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に情報を公開し、家庭・地域との連携を深める。</li> <li>○家庭学習を習慣化させ、授業に意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>

＝学校の教育目標＝	
<p>『夢や目標を持ち、笑顔あふれる学校』 ～心に響き、心を動かす指導を進める～</p>	
＝本校の課題＝	
<p>○命と人権を大切に、生徒自ら「心の教育」に取り組む道徳教育を充実させること。 ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図ること。 ○基礎的・基本的な知識・技能を活用する力である思考力・判断力・表現力を育み、自ら考え学習に取り組む態度を育成すること。 ○授業力向上を主に、教職員の資質向上のための研修を充実させること。 ○保護者との連携を深め、基本的な生活習慣の確立を図り、自律した生活の定着を図ること。 ○家庭・地域の実態・特性等を理解し、双方向の連携のもと、開かれた学校づくりをすすめること。</p>	
＝本校における「確かな学力」とは＝	
<p>○新学習指導要領に示された目標・内容に基づく教科の学力 ○学習の基本姿勢である「自ら学ぶ意欲」「聞く力」「言語力」 ○各教科固有の基礎的な知識・技能 ○記録・分析・説明・論述等の知識・技能を活用するための思考力・判断力・表現力 これらが、相互に作用しながら「習得」「活用」「探求」が深化・統合されていく力</p>	
「確かな学力」の育成に向けての取組	
「確かな学力」の育成に向けての取組	目指す姿(到達目標)
<p><b>教育活動(授業)の改善・充実への工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領の趣旨、教育課程の理解を進め、その実践に励む。</li> <li>○各教科特有の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけさせ、学習の基盤を作る。</li> <li>○観察、実験、レポート作成、発表、説明、討論など、知識・技能の活用を図る学習活動を充実させる。</li> <li>○言語活動の充実、体験的な活動の充実等を通じて学習の深まりに努める。</li> <li>○家庭学習の内容・方法等を適切に指導し、自学自習の力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領の趣旨を理解し、授業を展開している。</li> <li>○補充やくり返し学習の充実によって基礎的・基本的な内容を身につけさせている。</li> <li>○新学習指導要領の改訂の中で全体が取り組むべき課題について、推進校の実践に倣うような研修を行っている。</li> <li>○授業予定や家庭学習(宿題等)の課題の予定表を配布するなどの工夫をしている。</li> </ul>
<p><b>教育課程編成上の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習システムの指導方法・体制、分野の拡大の工夫・改善を図り、習熟に応じた発展的な学習、補充的な学習など個に応じた指導に努める。 <small>新学習システム(少人数学習)は、1年で英語・数学、3年で英語で実施</small></li> <li>○朝の読書タイムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少人数・同室複数指導等の実施により、基礎的・基本的な内容を身につけさせたり、習熟度に応じた指導をしている。</li> <li>○1日のスタートとして読書に取り組ませ、学習のリズムを整えさせている。</li> </ul>
<p><b>校内における研究や研修の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資質向上 ・授業研究を軸に据え、授業力向上に向けて互いに切磋琢磨する。</li> <li>・校内研究の中間評価の実施や学校評価の活用を図るなど、研究体制の充実を図る。</li> <li>・人事評価・育成システムを活用し、職員の能力開発と教育活動の充実を図る。</li> <li>・学力向上委員会を設置し、授業・特別活動・家庭学習を通して、生徒の学力向上を図る取り組みを実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究授業週間を設定し、全教科で授業力向上のための研修会を行っている。</li> <li>○研修会や担当者会などで得た情報や手法を校内研修会などで全職員に紹介する場を設けている。</li> <li>○各自の自己研修課題を明らかにし、自己研鑽に努めている。</li> </ul>
<p><b>子どもを元気にする工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チャンス相談や面接・教育相談を通じて、心のふれあいの充実を図り、養護教諭、県・市のSC、生徒指導相談員との連携も深め、生徒一人ひとりの生徒理解やその家庭理解に努める。</li> <li>○校内適応教室(ひまわり学級)の取組を全教師で進め、工夫・改善を加えながら、教室復帰を図る。</li> <li>○生徒指導方針、「五つのこだわり」の取り組みを通じて、問題行動の未然防止に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○面接週間の設定や、タイムリーな相談活動を実施し、教師と生徒の心が通い合う学級指導、生徒指導ができています。</li> <li>○校内適応教室の指導には全教科に関わり、生徒一人ひとりにあった個人目標を設定させ、その達成に向けて取り組ませている。評価は個々に合わせて行い、自信を持たせ教室復帰を目指している。</li> <li>○生徒の自浄能力を高めるために、生徒会だけを頼るのではなく、全教育活動で取り組んでいる。</li> </ul>
<p><b>家庭や地域との連携の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭や地域へ学校からの情報提供を適切に行う。</li> <li>○保護者からの相談等に対して、適切な対処を行う。</li> <li>○授業参観や懇談会を適切に設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校からの情報・案内等を、生徒へのたよりだけでなく、HPや地域の掲示板、回覧板等を利用して地域へ発信している。</li> <li>○オープンスクール(授業)を学期に1回設定している。</li> <li>○オープンスクールに保護者だけでなく、地域の人が参加しやすくなるための工夫・改善を行っている。</li> </ul>